



畧譜

十

高力 龜田 狩野
 若山 櫻田 上條
 甲斐屋 高谷 上村
 桂山 上村 寒河

二百一十四

万部現共十一

庫	文	閣	内
一五六函	二二冊	三六〇八八號	和香類

共十二

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (60)
函號	156 17



重長

重長は元弘元年に御成敗式目を撰りて御成敗式目と稱す

重長は元弘元年に御成敗式目を撰りて御成敗式目と稱す
重長は元弘元年に御成敗式目を撰りて御成敗式目と稱す
重長は元弘元年に御成敗式目を撰りて御成敗式目と稱す
重長は元弘元年に御成敗式目を撰りて御成敗式目と稱す

梁田新之助長之助

高力侍中

興三郎



徳光帝直實六十六代之河國の人

高力

記録御用所

高力 保屋 桐 権右衛門 権左衛門

武藏州のりるの同平分の河を以て渡河の面
 小原分の時長岡東に押す諸別田中城と物
 三石石渡別は方の上二程の河に河を今
 非渡今古馬の父子長谷公節の傍奥津田屋の
 菅原源之傍安のた馬の峰屋九之傍長谷
 川古馬又松の古節並諸阿部基の此之傍
 所之傍安の河に節之傍長谷の古馬傍竹尾
 者之傍安田又節之傍會松市は馬の菅原長谷
 古馬古馬又松の古節並諸阿部基の此之傍

物志字三年考考と知和降了
 降了のりるの同平分の河を以て渡河の面
 小原分の時長岡東に押す諸別田中城と物
 三石石渡別は方の上二程の河に河を今
 非渡今古馬の父子長谷公節の傍奥津田屋の
 菅原源之傍安のた馬の峰屋九之傍長谷
 川古馬又松の古節並諸阿部基の此之傍
 所之傍安の河に節之傍長谷の古馬傍竹尾
 者之傍安田又節之傍會松市は馬の菅原長谷
 古馬古馬又松の古節並諸阿部基の此之傍

河之傍安の河に節之傍長谷の古馬傍竹尾
 者之傍安田又節之傍會松市は馬の菅原長谷
 古馬古馬又松の古節並諸阿部基の此之傍
 武州長谷城二万石山本中須裁武州浦和
 三石石物の文福之元年 上之志とん天
 國渡海 出軍船道 川用成切境 武藏
 武州長谷城古馬の古節並諸阿部基の此之傍
 後西一如輪置るの之別長谷城を列山

長官の御事
長官の御事
長官の御事

尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事
尾別長官の御事

正長

正長
正長
正長
正長
正長
正長
正長
正長
正長
正長

正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月
正長四年三月

東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟
東照宮御廟

年正月十七日太人係相極事の改易の時
申由家老も牧野太人久廣等も亦如心
相平紙津もこの力持津も又人々も山田
東誠も居居れり此等も時々々々々々
中蔵と名取の~~...~~ 中蔵と名取の~~...~~
元々五年を以て~~...~~ 元々五年を以て~~...~~
子余と切~~...~~ 子余と切~~...~~

國書と名取の~~...~~ 國書と名取の~~...~~
又大後命の~~...~~ 又大後命の~~...~~
國書と名取の~~...~~ 國書と名取の~~...~~
又大後命の~~...~~ 又大後命の~~...~~
國書と名取の~~...~~ 國書と名取の~~...~~
又大後命の~~...~~ 又大後命の~~...~~

と

正徳元年の初は古く大昔以来の事
元初は元和と己年一書を以ての以て己
年九月加授を方石遠別領に授け封
の寛永二五年七月申の旨に於て下り
時々の方石の石の以て己年
大敵降服の時加授を方石の以て己年
年四月十三日肥前國治部郡持封の寛
文四年四月一日有言の方石の以て己年
平と初は初九列探取職長行表並船細

文四年四月一日有言の方石の以て己年
平と初は初九列探取職長行表並船細

川紙中もしたまふ初に松平統高も松平新
左衛門松平忠親もあく 姫君入陣の時
貝桶の役

大猷渡ぬらひ山雲の上を去る家討地山脈の
時、十萬石をもちて、物初、酒造、
和、く、山前、さく、山脈の雁と、
石の山脈、下、つ、地所、さ、
上、名、と、家、の、山、曆、え、末、年、十、二、月、十、日、
死、七、十、二、年、に、（赤松の孫） 山、國、乙、州、郡、西、景、物、集、村

水心守新ノ家士殉死しるもの人

山長守
さかたけ千部

山重

諸府よりひく

東照公より命は、元祖の命、
命、の、公、長、七、百、年、十、月、廿、日、

美山長守

さかたけ千部

山重

山次

山次

東照公より命は、
命、の、公、長、七、百、年、十、月、廿、日、

山次

山次

死時格之系本

高力左近将史 在

高力

守長 高力左近将史 在 寛永七年三月十日公方無之...

元和九年... 寛文八年二月...

地水云松平... 寛文八年二月...

寛文八年... 寛文八年二月...

寛文八年... 寛文八年二月...

高力

高力左近将史

寛永七年... 寛文八年二月...

同... 寛文八年二月...

同... 寛文八年二月...

同... 寛文八年二月...

高力

高力左近将史

在

寛永二年... 寛文八年二月...

二月... 寛文八年二月...

会元知... 寛文八年二月...

一石取らぬ羽州庄内小勢居。延寶八年九月
二日此取也。同年十月、弟居門守也
と同武花園林川小居位。天和二年六月
十三日洋湯と湯川同女七日康茶外子儀と
湯川より命合。貞享二年十月三日此中組
若取和積合石合。同四年泚書院若取。之孫
九年正月西日死。四十九歳。四谷敷橋橋谷

一葉

季長

高刀右衛門

寛文八年二月廿七日真田伊豆守小泚領信
濃國松代小勢居。延寶八年九月二日兄と
同泚也。天和二年六月十三日洋湯川康茶外五百
儀と湯川命合。病小依く康茶と返一也。
之孫十一年四月十日死。同子也葬

泚

寛永井利於高野
高刀右衛門

千膳

文祿九年^九長子^前彰徳。享保十三年十月^{十七}死
同日葬

法華文

同日重敷

子務

享保十三年十二月廿六日彰徳。同十六年

七月廿一日死同日葬

長昌

享保十三年十月十一日長昌。同日葬

権七

式教

享保十六年十月十一日長子彰徳。延享二

年十月十八日大車^車場^人也。○享保十七年

正月十一日使友。○同九年十二月廿二日^{長昌}

法華配。同八年九月廿八日。○享保廿。○

同年十一月二日叙^{長昌}。安永四年六月十日

南^{長昌}。同九年十一月十九日^{長昌}。○天保六年

二月十三日死同日葬

長民

馬力式紙
馬三子石

安永九年十二月十九日那務日記より

東照宮より村上因治より

古徳院より同人白福より

東照宮より馬力河内より

同馬力左と右より

古徳院より馬力権左衛門より

同馬力権左衛門より

馬力式紙
馬三子石
安永九年十二月十九日那務日記より

- 一 大徳院より馬力権左衛門より
- 一 同馬力左と右より
- 一 古徳院より馬力左と右より
- 一 大徳院より馬力権左衛門より
- 一 東照宮より馬力左と右より
- 一 同馬力権左衛門より
- 一 同馬力権左衛門より
- 一 同馬力権左衛門より

- 一 最者後及ふる力持はるるもくろく瑞平御書云
- 一 同高力たるを更へてしるし主陽御書云
- 一 同り華春御書云
- 一 右使後及るる福もくろく御書判
- 一 大祐院及るるれく御書判
- 外心
- 一 慈若二席重安入道蓮性法師自筆和歌
- 一 同人取柄の矢の根へ股

一 十文字鏡

江州錦川合戦の時高力と云ふつら内々朝倉
 乃侍古相若波新九郎と云取不依く織田
 信長と云り福と云り也

右の事介小取

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "平" and "姓".



平姓

三子

三子

長
三子
三子

徳谷二郎重実十八代三河國垣人三子
右依止正長三男三子三子三子三子三子

正房

三子

寛永七年丙申初見○以曆之年々忠房
の遠領の内三子石分知○寛文八年二月廿

宗家より力たると更澄長々領地矣交の事
ありて松平方系代わりの領り。正房も世時
領知收公とらるる由なり。思ふに旨ありて
清原乃地々らるる收せられお相國村の
の地二子石と給。元禄二年十二月十日日
没仕。元禄六年三月十一日死。同右殿。橋
就谷も小葬。

宗長

高力帯刀

孫九郎

元禄二年十二月十日。お終。同右年七月
海日死。同右小葬。

長氏

安部口助子四二男
高力たる由

妻三郎

養父の元禄六年十二月十二日。お終。同七年
七月七日死。同右小葬。

定年

安永田物三郎
高力勘之助
圖書

之禄七年七月十一日養子嘉徳。同年初見
○同九年二月廿六日死同子嘉

長行

安永田物三郎
高力勘之助
平八郎
孫守

養子。之禄九年七月九日嘉徳。同年初見
○享保九年正月廿八日所使友。同年十二月
布衣。同十年二月廿七小倉系清持時

騎馬勢子。同秋吉國福并國目能出金三夜

○同年十一月十日。同府同年同府。洋揚之

○同十一年三月廿七日小倉系清持小担騎馬

○同十三年日之清訪の時辰四圓身。同年六月

朔日新西吉取。同十七年七月布衣。上勤

唐系小少。同十九年十
月十九日所小組吉取。同年十二月
之文二年閏十一月十八日西九勤。同四年

之文二年閏十一月十八日西九勤。同四年

長貫
賢
賢

月朔日所書後若所。寛延二年七月六日
所留也。同三年二月八日死七十二。同
寺小葬。

長貫
賢

実母河内守英成七男

子力人字

橋入部

養子の延享四年十一月廿八日初見。寛延
三年六月六日初婚。天明六年八月廿六日
死六十八。葬同部小葬。

重乃

小春種

実母山内守春廣三男

子力修理

後所

大守

重乃

養子の天明六年閏十月六日初婚。同
年十二月七日初見。同八年正月十一日初見。
○同年三月廿四日。糸地の邑入年々サマと
とくく。康平小かくり。○同年八月廿七日。駿府
御目付出陣令二枚時服と給。○同年十二月廿
日。福。同十八日。布衣。同廿年。二月。小松。重乃

御事... 寛政二年... 九月... 初見...
 九月... 初見... 寛政二年... 九月... 初見...
 九月... 初見... 寛政二年... 九月... 初見...

重忠

実領并... 石野...
 石野...

晴司

寛政二年九月二日初見

葛心 了百平儀

後原村

家紋

九月打邊... 山形三...

葛心孫太郎宗貞男孫治右衛門宗勝嫡男
 男場之五郎春下与後浪之寛文八年
 十二月七日死

女子

石野

天樹院殿... 在位

典想左衛門

宗治

婦石野成

天樹院殿日草任江戶御下向之旨成
也依任表年考和勤少府石野成教明
曆元年石出之礼
天樹院殿消時身之間也高。寛文元年
二月方也高子居也死。天和二年四月
廿二日死。年一。兼石川大慈子也高。

二郎玄清

宗好

甲府宰相總豊云也小性成

十左史

宗廣

天和二年七月十二日家治。貞享八年
三月十八日表也。高。元禄五年二月廿
二日。夜新所用。至也。死。若年也。高。死。

○病免。○宝永元年八月丙辰未深毒
○日六年四月竹姫君附。○元禄二年十
二月女三言加秩三千俵合百俵三人扶持。
享保六年病免。○致仕。○同十八年十
月八日死。七千四百石日寺。

宗務

長九郎

享保九年十二月女八日安侍。○同十年

十二月十二日二月丙辰未深毒。○同十六年
丙辰九勤。○同年二月廿八日
修成院殿附。○同十八年丙辰勤。○寛
延元年七月丙辰一統小普信。○宝曆三
年六月女言富士見。○宝永元年。○日七
年十月言病免。○日八年十二月十九日
致仕。○安永元年二月八日死。七千八百石
日寺。

改重

友之助

宝曆八年十二月十九日家督の口十年
九月十日死二千七歳同日

宗在

信務二男

易次郎

宝曆十年十二月四日去りて安徳の口
年二月廿七日死二千七歳同日

口未年二月廿三日由勘定所書物に用ひ同日
申年書物所用渡り書物に用ひ同日
○月八亥年八月廿日評定所書物に用ひ同日
又杖持の天明口辰年同正月廿三日勘定
○月六年二月十八日評定所書物に用ひ同日七未
年七月十四日死二千七歳同日

宗盛

実井上玄母世章三男

高心政吉

子規承或後口石五斗

天明己未年十月四日養子家譜。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

橘姓

高四子名

橘時張菊水

甲斐庄

左大臣橘諸兄公後胤從五位下攝津河内
二州守補判官橘正成少正氏之養子
七郎正季實者正氏二代左郎正繁物与甲斐庄
と稱と正繁九代と孫河内烏帽子形城之
侍前与俊正七男

甲斐庄云右也

正治

甲斐庄

浪人少く河内國に在り

東照宮遠別濱松より在り跡の付石公に礼拝

園東より移り来地三百石と賜ふ小田原水

陣供養の慶長乙子年八月廿五日迄

二奉納也右祥寺小巻ふ

先祖

一 旗

一流

白練地紋并ニ社神号長正成自画自筆

慈覺大師化

一 毘沙門天

一 神

一 兼 津波舟沙團扇一本

右より左を得る所

正房

甲斐庄森右衛門

天正十六年小田原水陣又と承小供養水内

陣の後園東より移り新地三百石と賜ふ

父正治死す後父の来地と物とて承継

六百石とるる園ヶ原水陣供養の大津書

組次。大坂より陣の別河内必道明寺

小治く礼坊と少くをくゑつと水朱やと錫の
こくうとまの野伏士大坂へ善城せまら
むたの也の大坂夏水陣の別々水取日向
備成く先流く連大和口先くせりこれ
我切あり水帰陣の後系於二條ふ於く
河月の國不知乃月錦於郡少く二子石楊
りり五集る六百名をねん。天王寺水造管
奉りて後河州錦於郡の月を方字石の地
と新く流。

台徳院敷中代水取り縁くまぐ地と居る。
寛永七十年七月廿六日と云七条目
りり流る。

正述

甲斐元長左衛門

大猷院敷中代家格。○水書院番。○慶安元子
六月十八日之川園来寺水書院番。○美應
元禄年正月廿八日長傍奉り。○同日己年正月

其日叙青^{布衣}○万治三子年六月廿日死同守小孫

正親

甲斐元飛騨守 左衛門 侍八郎

永享二年二月廿七日
小性組居二年十二月廿七日○寛文六年六月廿日十九使番同日
十二月廿八日布衣○同七年十二月廿日
巡見少納言在叙时後三羽織○日十二子年
九月七日也勘乞奉納茂別於飛騨相州大位

那の月子三百石加秩合三子名高○延宝八
申年同八月廿七日町奉行○同年十二月廿日
叙青○天和元貞年四月廿日友料子傳と
加秩とせし是實録に子名とあり○元禄
二年卒三月十日死同守小孫あり

正奥

甲斐元飛騨守 左衛門 侍八郎

兼應二年十二月廿日在右 礼少性組

○万治二年十二月廿三日又西述より三百石
 の他。寛文二年十二月十日。進物由事。○
 同五巳年七月十五日。由小納戸加積二百俵。○
 上別大蔵山形く加積五百石。食ふ石の又
 正述多他三百石。河州先祖の番地。ふ
 より足飛弾さへ。ふ。ふ。形ひをりし
 よ。又右よりけ。三郎左馬。一。此地を
 追ふ錫く。ふ。ふ。作出され。河州三日布
 南華田代地。三百石。天和二年
 〇天和二年

八月十日。由佐。〇貞享元年七月廿日
 死。右。祥寺。ふ。ふ。

正之

〇山形

甲斐文左郎左馬

万治二年七月十日。由小納組。寛文元
 年十二月十日。康米。三百俵。錫。〇天和二年
 十月十日。濃州。由那代。加積。三百俵。月
 十二月十五日。布衣。〇貞享元年十二月十日

安徳。同日二年八月十九日。祥免。心疾。し
りて安絶。元禄二年正月。方。死。し
吉祥寺。小。葬。ふ。

正永

甲斐元元在傳

元禄三年七月廿七日。安徳。安。合。同日。年
閏八月十二日。出。院。改。同。年。十二。月。廿。六。日。布。衣
。同。年。十二。月。十四。日。出。院。改。同。年。十二。月。十八。

十四日。出。院。改。同。年。十二。月。廿。六。日。小
普。法。入。享。保。二。年。三。月。廿。九。日。死。約。也。吉。祥。寺
。葬。

正桓

実録のつちとては男
甲斐元元在傳

三在傳

宝永七年二月二日。養子。享。保。二。年。六。月。二。日
。葬。小。普。法。同。日。年。六。月。廿。六。日。出。院。改。同。七。年
。四。月。廿。七。日。熊。野。勸。化。金。集。同。年。六。月。廿。六。日
。火。消。役。同。年。十二。月。十八。日。布。衣。同。八。年。

六月廿七日年命心相して養居。宝曆九年閏七月
廿一日死六十九歳同心葬。

正寿

甲斐左衛門尉

享保八年七月廿二日父正恒時心相して乃
子に相ハ一族より預と申さるれお終つて乃
○元文二年六月廿八日初見。宝保二年正月
十日、大車、傷見也。延享二年六月廿日
死六十七歳同心葬。

正賢

甲斐左衛門尉

正十郎

延享二年八月二日初見。宝曆七年三月十
八日初見。同八年九月朔日駿府加普正時殿
三指折り給。同九年十月廿日初見。明和二
年八月二日大車、傷見也。同三年十月十日
大指折。同年十二月十九日布衣。明和四年
八月晦日死三十三歳同心葬。

心防

実心亭二男

甲斐屋玄庫助

求馬

子也石

明和八年十月日、養子お徳。同年十二月九日

初見。明和八年四月九日、被府知事と命まられ

し、病ふりて先さ。安永元年九月十日

中川治書。寛政七年十月、孝。記石拾遺集

古徳院及御筆 菅神像 一幅

常憲院及御筆 花鳥風月文字 一幅

舟代子紙 琴巻文字 一幅

大平、楽、文字 一幅

右、八支族甲斐屋玄庫助、正奥、山、小、納戸、等、

あり、端、より、後、家、地、に、依、り、心、防、家、に、

傳、

正憲

辰也

寛政八年二月、

その百五拾歳又核持

赤坂 肘袋菊水

袖指 口根寄稿

橋州

甲斐文左

左大臣清光の遺風

甲斐文左二年

某

河内國浪人少く其長年九箇年

大坂より陣の長谷津へ糸

東照公の御下は右和國法隆寺の御宿

より此の御村より西の陣より西の某月

龍田印之元年 在室考考考之考人考村
在考考、作考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考

正史

甲斐又信信考考

寛永十一年 四月 辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

葬

正史

甲斐又信信考考

寛永二年 四月 辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

要

甲斐元正二年

元正二年十一月評定所見習の因十一
寅年十一月家督評定所南宮左衛門
守保元申年十二月十日加秩之程儀
〇月十四日申年十一月晦日忠貞平助を
流の時を以て申年十二月五日進申
〇元暦二年十二月四日死七拾六歳
以守之葬

来

甲斐元正平助

評定所南宮左衛門守保元十四年
十一月晦日を流

心長

甲斐元正平助 流在初体

元正平助の流定所南宮左衛門
守保元申年十二月十日加秩之程儀
〇月十四日申年十一月晦日忠貞平助を
流の時を以て申年十二月五日進申
〇元暦二年十二月四日死七拾六歳
以守之葬

心離

心離書局藏
三卷本
甲斐文庫

大光

心離三箇年一若子の日年八月評定
不見智の意定之三年七月之智若信
少舟出入扶持之御の家曆二申年
六月八日父若果少切舟出扶持方り
御指の日年七月八日評定之御書
日お亥年一月月日之九拾之三本
日亥年

心

心離書局藏
二卷本
甲斐文庫

心離百箇年八月三日御書の日月
心離評定之御書の日月
十八日心離評定之御書の日月
日心離評定之御書の日月
心離評定之御書の日月
日心離評定之御書の日月
日心離評定之御書の日月
日心離評定之御書の日月
日心離評定之御書の日月

月十八日海防同年十二月廿五日在廣
令或教の日に前年十二月廿九日留台
之也是代も亦位員水月之并五那村
百姓正録之より吟味二月廿五日
抄取時在或留月廿八日海防七月廿九日
令之或の日本八月十八日道中より吟味
物骨折るる症候投りて前年八月廿八
日十日在東京海防より之事より四劫定
年より長夜より今より月骨折るる

吟味物海防同年八月廿九日海防
捕取骨折るる症候投りて前年八月
月十日在東京海防より之事より四劫定
年より長夜より今より月骨折るる
尚及組織と動左科百俵の日本前年
十一月海防より前年八月廿九日海防
より令之或の事候元同年八月廿九日
より前年八月廿九日海防より前年八月
より前年八月廿九日海防より前年八月
月十日在東京海防より之事より四劫定

之三年九月七日評定所為及内所
智之志云云元和四年十月廿七日
日六寅年九月十日以前為及之志
少月由目見名和日月毎日免日
十月十四日及後評定所為用多
貴新少月布志日月十年年一月
八百枚年如積の月如積俵地積
百文積俵之人持持之江江及名
積多く評定所為及之志定組以

之留日月十年年一月廿二日評定所
格例撰述以用者新時振武。

正邦

甲斐文正長之節

寛政四年三月廿七日初見

帝憲院所代

桂山

高皇拾俵

源姓

家教訓菱

先祖不詳

信樹

兵庫頭

幼名 庄六郎

甲州武田居云之一族高皇山梅雪父

方渡舟則梅雪信甲州市山守為
城代五百貫之領。天正十年梅雪
隨去洛二月八日於攝國宇治
田原為一校石原孫次梅雪同亮

忠治

何右衛門

母多苗字師崎三月

梅雪揚子元勝年代巨井寺志林寺

討元後勝千代後渡

東遷宮殿新田國寺城美上成山原處
幼年病死家別後自浪人成。
慶長十九年守於攝國先

治高

清宗源

相所鎌倉浪人。延寶五年九月

庄之師

師崎三月

元龜倉光四十年專東修院華

信好

新造

所崎之景

鎌倉之良人。元龜八年正月十日
葬白寺

義樹

三郎右衛門

可參

十五郎

信好三郎

若宮外之母江左府村山名葉林
大學頭信實門人成。元龜九年七月
廿九。新造。正。多。儒者。指。五。扶持
所。休。息。向。於。所。自。見。日。十。二。年
十月廿五日。扶持。百。五。藉。儀。七。成。下
。廣。永。年。二。月。朔。表。儒。者。〇。京。保

三年十月十五日許定勇勤役儒者○
日永年三月十五日集物古并○寬延
二年正月三日病之重得年景日進初
日慶集教○日永年二月廿三日年終
系滿山威光寺院安葬

應元年七月三日保元年八月五日寫物用
古初年所慶集黃金抄撰於
寬保九年以集初書校合唐奉一諺解其所用
抄度相動并抄物初用

義林

鄉居

要人

元永年十月十日初見○寬延二年有
下家習書請○安永七年正月書
光年終不古并日寺

雜

二書園

曲豊海

実見外記程根重

安永七年二月廿二日
寶曆元年
八月廿二日
天明元年
七月廿二日
西元中
日
廿年
十月
廿二日
病
日
七年
八月
廿二日
宣
三年
十月
廿二日
山
録
物
所

管見
日
四年
八月
廿二日

山
録
物
所
宣
三年
十月
廿二日

信安

猪
三
島

寛政七年十二月廿二日
寛政七年十二月廿二日
宣
三年
十月
廿二日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

常憲改殿所代

重田

酒姓

高野書集

家教三階重田

清和天皇後胤三好河波守長居
本連之好修理大夫長慶才鳥詰才助
長三河波才鳥居住居三直州代
有故該請重田改

三直

孫助

略爾曾向彼方之長也其年日月書
九年於葬也考

長良

作右衛門

生助諸君考方之長也九年於葬也考

三由^{三十}

三所^三

延寶九年八月十日於播田出敷
必即勘之。元禄四年十月十八日
納。口早二年十月廿五日於
不知之或西員氏念寺葬

三條

三條宮

貞享四年十月七日於櫻田山殿
 御勘定。元禄七年十月九日
 是御以。口年平列。多壽。口年五
 年者。若。甲。所。友。福。頭。口。實
 承。元。年。三月十五。中。全。集。口。口。之
 年。口。月。廿。五。中。事。口。口。是。

文庫蔵西丸上為
 三年三月廿九
 去。口。山。殿。御。勘。定。口。口。保。五。年。朝
 拜。口。山。所。用。口。年。八。月。廿。五。時
 服。式。口。口。年。三。年。九。月。廿。七。指。五
 家。葬。口。寺

三清

清三

古森皇年三月廿五日物領。
 口年五月十日初見。口年三月十二
 月十二日家督也。口年五月
 五月廿九日西丸事人。元文元年
 才月十二日新中事。寛延元年
 吹矢的射服。寛延二年有世_{分書}

所代官事表在兩山。四名。口年
 所年貢年內比阿津。口年五月
 金武校。寶曆三年七月十日在
 増也。口年三月十日増也。石合
 之名。比津河内和泉國。堀京。堀
 廻弘方。其年。宝曆五年口年貢
 皆併。口年五月。口年貢。
 口年十月九日。新。家利。地境。不。

安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日

三興

奉此

安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日

安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日

安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日
安永九年正月廿二日

三詮

專三所

二所五門

實後園屋中直澄書

寛政五年四月十六日拜卷子〇口年

青苔初見

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

常憲院殿中代

程田

高百五拾俵

源姓

家数五三箱
九内器

先祖不詳
長男 出原在程田源氏量

直輝

忠助

常憲院殿中代年月日号

文昭殿上皇書河中華山書百集
。宝永七年正月十八日加封五格儀。
。享德三年五月十八日奉河中華山書百集一
統書善信。口年十月廿九日隱居。
元文三年正月先公年三氣助也福
相寺葬

作才師

隱居 素神

直實

年月不考初之。享德三年十月
廿九日家督。寶延二年七月廿七隱
居。明和二年正月先公移葬葬
口寺

祇直

忠妙

寛延三年七月廿七日。家督。口年。有
十八日。表。出。若。美。天。明。年。五。月。廿
病。免。少。善。清。口。年。有。死。卒
一。家。助。是。福。相。寺。年。

相直

彌太郎

安永三年二月廿七日。口年。有
月。九。日。表。出。若。美。天。明。年。有
父。死。口。高。天。明。年。有。口。年。有
皆。勤。慶。長。年。有。口。年。有。口。年。有
心。相。直。慶。長。年。有。口。年。有。口。年。有
銀。五。枚。口。年。有。口。年。有。口。年。有

慶金五枚。宣政四年十月五日
○日皇年十月七日家督御由古勤
手慶銀三枚同八年並每古銀三枚
○日九年十月三日皆勤慶金
五枚。日年八月家督古事後古
勤由日慶銀五枚後是每古五
枚了

大正

高谷

高百五枚

源姓

家教功内古古

依本四原氏信嫡流古極依度利友金
道譽九代之孫富永三原古門春行
古源古前古春種古高谷村唐
古春種古

盛政

士大夫

大猷殿内代。正安内院。隆慶元年。宣永
五年。五月。廿一日。先年。歿于。葬。助。此
蓮光寺

大盛道

太三郎

宣永五年。十月。廿六日。家。宣内院。隆慶元年。
宣永七年。二月。廿九日。先年。歿于。葬。
助。蓮光寺

盛直

太三郎

宣永七年。七月。廿五日。家。宣内院。隆慶元年。
宣永元年。十月。廿五日。宣内院。宣定。元禄

東元月所代官。仁德元年十月
朝鮮人櫻川宿留。百山所之。○
重保三年十月。善清入。○日
十月廿。九年。於不知葬。口寺

盛重

清古邊

實安藤由。直基沙男

元龜七年七月十日。知尊。卷子。○日。今
十月十日。所勘定。新規。百五。稻。儀
○重保二年十月廿。父。死。口。高。○
仁三年七月廿。言。十。人。○病。之。○日
九年十月廿。言。九年。於。不。知。葬。口。寺

盛澄

定正

寛保元年三月四日家督。元文二
年四月廿四日西丸十八人。寛保元
年四月廿九日年終不知妾日等

根澄

清吉

實田永孫大夫春兼少曾

寛保元年七月二十日卷之家督十番清
。明和元年七月二十日十八人。安永
五年四月日先所社系出候。天明八
年九月十日先五指之家系同身

根弁

三波

實錄作在國門政事

天明二年青丸卷子。口八年

十月百家者善清。官政事

九月廿五初之

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

源姓

子百五在石

上林

長及

多田滿伸之男乙葉掃地物於季

後流丹波至任人亦并又三節甚家

後裔上林加賀子之室掃男

之家

上林掃地也 初發之也

先祖亦并又三節甚家之男二節亦家

予の母は公の母に比し母波玉と稱す
任在仁右身在忠孝用之極而節操
之主心正而氣節高上仕職切多
加賜号久重及石秀家植商之誠
良字法上引致中平年應之知不之
漢并伯前与長政麾下在兵出巡於
母河國初并世以河田家之合戦之長加
加号之陣自自自自自自自自折矢
取之在是進之之之之之之之之之之

之月後敵教寺討信玉而極之善在
敵將志退教長政の勝利は是金加
与勳功之由之自善政感状之善
之相之善之教之長之善之善之善
之相之善之教之長之善之善之善
後河井家廢没後城が空に在り
天守七世年死右之善之善之善
之善之善之善之善之善之善之善
之善之善之善之善之善之善之善

一為五化... 於元治... 亦知以... 亦知以... 亦知以...

檢尺福茂... 檢尺福茂... 檢尺福茂... 檢尺福茂... 檢尺福茂...

一為... 檢尺... 檢尺... 檢尺... 檢尺... 檢尺... 檢尺... 檢尺... 檢尺... 檢尺...

一人の... 津川... 海... 水... 堤... 中... 年八

... 堤... 中... 年八... 津川... 海... 水... 堤... 中... 年八

... 堤... 中... 年八... 津川... 海... 水... 堤... 中... 年八

久我重房の事は、後醍醐天皇の御時、
 侍臣として、御成敗式目を撰定するに
 功ありし事、今も御成敗式目の中に
 御成敗式目撰定に功ありし事とあり
 たり。

権左衛門尉藤原朝隆は、後醍醐天皇の御時、
 侍臣として、御成敗式目を撰定するに
 功ありし事、今も御成敗式目の中に
 御成敗式目撰定に功ありし事とあり
 たり。

権左衛門尉藤原朝隆は、後醍醐天皇の御時、
 侍臣として、御成敗式目を撰定するに
 功ありし事、今も御成敗式目の中に
 御成敗式目撰定に功ありし事とあり
 たり。

四年三月廿七日
勸修寺
歌福徳村
住持九別
とる百の積
無事
○廣
年

法
と討
法
未
法
運
とら
作
死

上字力在後身也除下而芭蕉之詩
四轉其音歟の同年九月一日之字
死法の旨

檀形後中末下之抄本割書下下右字凡

抄本割

字

- 一 軍路甲乙人亦聖坊得籍事
 - 一 放火之事
 - 一 毒子牛之筆
- 右條之墨令信止迄若何遠托也事

東之處農料 之是河上之抄

行状抄本

○長安元年九月五日

○長安元年九月五日 長安白皮抄後致狀
 古紙拂取抄本也 上書有之
 身之義也 古之抄本紙之古抄本
 中書尚書就少時中書及花皮之抄本
 牙後就上仕位之仕位也古抄本
 伊賀也紙之古之抄本途中抄本

先考の折紙の事
 為後之...
 代々...
 於...
 以...
 於...
 之...
 其...
 十...
 葬

控...
 母...
 生...
 如...
 心...

控...
 控...
 古...
 知

名徳後承今序内之於此也深業
物也此也

○如聖子久重曰曾上林竹居後石
送公之袖於依見之誠松丸抄此之居
又市之居此也上林又之居也

勝永

上林掃部助 二節 德興

文徳武之り至文河之色之居此年之誠也

氏友之業用之り書之勤之居此也
抄之り日之り業師大徳此也居此也
勝永之居也

於此居之り目之り人仕之り上之り業之り業此也
書之り糊之り力之り上之り業之り上之り業此也
り之り色之り業之り業此也居此也
用之り業之り上之り業之り業此也
古之り上之り業之り業此也

古徳後承此也之居此也之居此也

中絶江の如く後永井流漢と出た初
野次権井宗信一途再権江の江守
心業師長七と申す古事也 神上居
古時後希業全権江守細田宗師大
主人言ふ能江守忠也宗師長七と有
取物十幅水方上流流江守又と申後
此世と云流人言

権江流 以上流く長と梅竹居功業
師長再取物と流江守又と申初任

○元和二在年三月廿九日以後
存生と申業終六折所也今折上と有
親縁存生と申一存業終位也存生と有
存生

勝盛

上林掃部丞

又北條 奉

父流成下也又村守居能并出成友
古初也城也内増地也守月也業

開成元年八月其日候
上座御座可三首九條石山御下不曲
兼平及少少之兵と秀吉の山守軍中
軍用史及知能陣の取合有は御下由
定治平所座村の百姓及及之許書
物夫と由茂之取合御下之兵御下
御下石山御下茂之取合御下
右御下之取合石山御下之取合御下
石山御下之取合石山御下之取合御下

御下之取合石山御下之取合御下
右御下之取合石山御下之取合御下
御下之取合石山御下之取合御下
石山御下之取合石山御下之取合御下
御下之取合石山御下之取合御下
石山御下之取合石山御下之取合御下
御下之取合石山御下之取合御下
石山御下之取合石山御下之取合御下
御下之取合石山御下之取合御下
石山御下之取合石山御下之取合御下

楊新造三月五日織田氏為作之林宗
順友人より勅の義徳三三年二月
此楊新造後三月五日有林市之場
林宗吹友人より勅の明曆二年
三月七日死す三月五日年并
名徳侯様成りて毎年歳言出後後江
梅之山神社之國書下

...

豊重

其脚如言
上林掃部助
百歳 若水

隠居 宗兵衛

明曆二年三月五日自京言江迄死代

友山宗兵衛

後有侯様成りて言江迄死代
府江宗兵衛及武程後秋上府子之
秋上自見江時存命今之夜將上時後
武令言及下〇宗兵衛元世年十月十日

后軍無功の日は二年二月廿九日在處
東城建仁年中二月廿九日在處
本物くくくそまのまのま

重胤

上林掃部助 佐助 孝俊

父行成系と云國分人服部氏初代
文元五年十一月廿九日在處
受領及重胤用之徳目少礼系府司官見
秋上物無所也又附の月十二子年定法

揚新造 行成系の定宗と云年河見
二月廿九日天和元年十月廿九日
替也社系と云國分人初の貞孝と云年
中法揚新造重胤と云元禄七年
口物と云重胤と云重胤と云重胤と云重胤
昭長と云重胤と云重胤と云重胤と云重胤
お地と云重胤と云重胤と云重胤と云重胤
大西普清と云重胤と云重胤と云重胤と云重胤
重胤と云重胤と云重胤と云重胤と云重胤

年九月廿九日卯の日に七當年二月廿五
 日戌時出れ果し四月廿九日廿二日酉時
 太糸府より老若者有 山内月杖也
 ○山内とて年四月廿九日午十一歳至
 秋家より弟は代とて初秋上はひち
 ち中可也初とて津素秋上はひ

久豊

上林門の部

元禄十一年年卯也何とて山内月杖也
 傳の家永七當年年父月及未府月
 足山内月杖也何とて山内月杖也
 病身有月杖也何とて山内月杖也
 法也知也何とて山内月杖也
 ○山内とて年八月廿九日午十一歳至
 初の日に廿一年六月廿九日午十一歳至
 山内月杖也何とて山内月杖也
 年六月廿九日午十一歳至

冒月之否... 後之代... 伐... 在... 初
之... 大... 之... 月... 者... 之... 如... 上... 納... 諸
利... 自... 之... 月... 履... 仁... 者... 之... 他... 之... 後... 之... 氣
... 仁... 之... 否... 仁... 者... 之... 夫... 四... 者... 之... 之... 以... 改
... 易... 之... 仁... 者... 之... 中... 後... 之... 右... 之... 之... 之... 事... 中...
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以

當時納... 者... 之... 者... 百姓... 事... 進... 之... 者... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以
... 仁... 之... 之... 仁... 之... 履... 仁... 者... 之... 先... 年... 以

此後市上車道之角は色を定むるに及
易に其の有りたる代に其の法を以て所
有は其の二色を以て其の有りたるに
其の有りたるに其の有りたるに其の
上秋の大雪は其の有りたるに其の
字法切半は其の有りたるに其の
書物の中は其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の

此の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の
其の有りたるに其の有りたるに其の

〇日六廿年一月四日

高証信此後乃河野甚業亦于四月廿
五日卒後の志一旦改易は河野公氏
が御承知ありしに及ばば四月廿
五日に河野甚業定むる所とて河野下
之台に書付しに卒後公氏有御承知
也此

控記極成の事たりし材木亦京師河野代
領より之命しに後信等より勿論御地
系由承知ありしに及ばば御承知ありしに知

河野代領信等より京師河野代領
より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知

有御承知ありしに及ばば御承知ありしに知

河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知
河野代領信等より京師河野代領より御承知ありしに及ばば御承知ありしに知

大正九年七月五日死
七十七歳八月廿五日葬

武久
上林左仲

正九帝

元文元年六月廿七日
同日午年七月廿八日
同日午年八月廿九日

武久
元文元年六月廿七日
同日午年七月廿八日
同日午年八月廿九日
同日午年九月十日
同日午年十月十一日
同日午年十一月十二日
同日午年十二月十三日
同日午年正月十四日
同日午年二月十五日
同日午年三月十六日
同日午年四月十七日
同日午年五月十八日
同日午年六月十九日
同日午年七月二十日
同日午年八月二十一日
同日午年九月二十二日
同日午年十月二十三日
同日午年十一月二十四日
同日午年十二月二十五日
同日午年正月二十六日
同日午年二月二十七日
同日午年三月二十八日
同日午年四月二十九日
同日午年五月三十日
同日午年六月三十一日
同日午年七月一日
同日午年八月二日
同日午年八月三日
同日午年八月四日
同日午年八月五日
同日午年八月六日
同日午年八月七日
同日午年八月八日
同日午年八月九日
同日午年八月十日
同日午年八月十一日
同日午年八月十二日
同日午年八月十三日
同日午年八月十四日
同日午年八月十五日
同日午年八月十六日
同日午年八月十七日
同日午年八月十八日
同日午年八月十九日
同日午年八月二十日
同日午年八月二十一日
同日午年八月二十二日
同日午年八月二十三日
同日午年八月二十四日
同日午年八月二十五日
同日午年八月二十六日
同日午年八月二十七日
同日午年八月二十八日
同日午年八月二十九日
同日午年八月三十日
同日午年九月一日
同日午年九月二日
同日午年九月三日
同日午年九月四日
同日午年九月五日
同日午年九月六日
同日午年九月七日
同日午年九月八日
同日午年九月九日
同日午年九月十日
同日午年九月十一日
同日午年九月十二日
同日午年九月十三日
同日午年九月十四日
同日午年九月十五日
同日午年九月十六日
同日午年九月十七日
同日午年九月十八日
同日午年九月十九日
同日午年九月二十日
同日午年九月二十一日
同日午年九月二十二日
同日午年九月二十三日
同日午年九月二十四日
同日午年九月二十五日
同日午年九月二十六日
同日午年九月二十七日
同日午年九月二十八日
同日午年九月二十九日
同日午年九月三十日
同日午年十月一日
同日午年十月二日
同日午年十月三日
同日午年十月四日
同日午年十月五日
同日午年十月六日
同日午年十月七日
同日午年十月八日
同日午年十月九日
同日午年十月十日
同日午年十月十一日
同日午年十月十二日
同日午年十月十三日
同日午年十月十四日
同日午年十月十五日
同日午年十月十六日
同日午年十月十七日
同日午年十月十八日
同日午年十月十九日
同日午年十月二十日
同日午年十月二十一日
同日午年十月二十二日
同日午年十月二十三日
同日午年十月二十四日
同日午年十月二十五日
同日午年十月二十六日
同日午年十月二十七日
同日午年十月二十八日
同日午年十月二十九日
同日午年十月三十日
同日午年十一月一日
同日午年十一月二日
同日午年十一月三日
同日午年十一月四日
同日午年十一月五日
同日午年十一月六日
同日午年十一月七日
同日午年十一月八日
同日午年十一月九日
同日午年十一月十日
同日午年十一月十一日
同日午年十一月十二日
同日午年十一月十三日
同日午年十一月十四日
同日午年十一月十五日
同日午年十一月十六日
同日午年十一月十七日
同日午年十一月十八日
同日午年十一月十九日
同日午年十一月二十日
同日午年十一月二十一日
同日午年十一月二十二日
同日午年十一月二十三日
同日午年十一月二十四日
同日午年十一月二十五日
同日午年十一月二十六日
同日午年十一月二十七日
同日午年十一月二十八日
同日午年十一月二十九日
同日午年十一月三十日
同日午年十二月一日
同日午年十二月二日
同日午年十二月三日
同日午年十二月四日
同日午年十二月五日
同日午年十二月六日
同日午年十二月七日
同日午年十二月八日
同日午年十二月九日
同日午年十二月十日
同日午年十二月十一日
同日午年十二月十二日
同日午年十二月十三日
同日午年十二月十四日
同日午年十二月十五日
同日午年十二月十六日
同日午年十二月十七日
同日午年十二月十八日
同日午年十二月十九日
同日午年十二月二十日
同日午年十二月二十一日
同日午年十二月二十二日
同日午年十二月二十三日
同日午年十二月二十四日
同日午年十二月二十五日
同日午年十二月二十六日
同日午年十二月二十七日
同日午年十二月二十八日
同日午年十二月二十九日
同日午年十二月三十日

云遊のてし高人他心他心
の流の事大聖二年四月又
知る人ら知る心所事二年
治川法水四葉事流生心
二月十日心流傷心事心
心の或心病心身将心
心月七日心心心心心心
心心心心心心心心心心
心心心心心心心心心心

心林門心師

心師

心嘉

寛保二年五月九日心葉心用心
心心心心心心心心心心
心心心心心心心心心心
心心心心心心心心心心
心心心心心心心心心心

是日修^り成^り候^き御^い願^い文^を
實^に是^れが^ゆ故^に毎^年長^に過^さず

山林六師

之念

言百九拾石

昭和九年十二月廿七日
五十九年十一月廿七日
九月廿七日
八月廿七日
七月廿七日
六月廿七日
五月廿七日
四月廿七日
三月廿七日
二月廿七日
一月廿七日

今之秋の五ヶ月前より一席に収まれば
町場の存続の如くは代に角會と市次
席とを併せて二ヶ月前の毎歳年功に
少くは四五割に少くは歳々少くは四五割に少く
是れが故に代に一割には十年分を成す
此等書取候はる毎歳に米山一野増
と寺代へ四五割に代に一割は四五割
秋上の代へ四五割に代に一割は四五割
此等書取候はる毎歳に米山一野増

日本書紀卷之二

久遠

上林水部

宣統十年年二月廿五日
又三書水部

[Faint bleed-through text from the reverse side]



源姓

上林

三三白名

廣左相也

依本義禎後裔丹波國後人上林也
常事末男

以重

上林鐵前

又市

丹波國上林也
鐵前也
後天正元年二月廿五日

大分縣重原馬場山所と云紙前段

権現様と云云、之れを初め百名石を山側
近邊に之れを勤之り給ふ御事なり、此に有る
赤平の歳、慶長五年、赤平の歳、去
以後、赤平、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
居る、赤平、山國勢、方紙前段、之れを
之れを、山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを

山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを
山城、内山、山國勢、方紙前段、之れを

武佐様執柄の他先様中侍公之御
奉旨院中表林居位信信明友之因
奪以首別日等舞

改信

上林又書信

又市

親打死之云々十歳月云々云々云々
云々江和身の内中云々云々云々
野山中性院院云々云々云々

陣落利の云々在付云々云々
板金伊知云々云々云々
天左陣由縁信云々云々
附由少神頼云々一
有取程又云々云々
云々の云々云々云々
云々の云々云々云々
云々の云々云々云々
云々の云々云々云々

是又三條城日清刻古抄の巻は
其後志のり月力事内河原の
四休城の事也其後去河原の
是又三條城 上之り上之り
亮のり上之り及根務のり
捕捕のり上之り其後河原
河原田のり上之り其後又
其後上之り其後上之り
其後上之り其後上之り
其後上之り其後上之り

死は其後上之り其後上之り

改次

上林又三條

又三條

其後上之り其後上之り
其後上之り其後上之り
其後上之り其後上之り
其後上之り其後上之り
其後上之り其後上之り

東照大行状に神号由來物於 神祇拜候

法皇御知寛延三年六月大英格申の御曆
二年七月及び日死の年六月日午葬

政能

上林又三信

政能は成安の弟也用の江戸上系上口也
之は是乃古系之任也中名也其元
平古系也其元也并之古也其元也
其元也其元也其元也其元也其元也
其元也其元也其元也其元也其元也

政高

美濃守
上林長吉郎

又高は高也其元也其元也其元也其元也
寛文七年七月日死格九年日午葬

定政

美濃守
上林竹房 右須

又定は定也其元也其元也其元也其元也

病在江右名在德之邦之世其有月心之
相續は徳友并四弟中用之書之文也其年
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志

分書中及之長調并雅樂以江右後以之

改

上林又書信

父病在江右名在德之邦之世其有月心之
相續は徳友并四弟中用之書之文也其年
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志
御書中及之長調并雅樂以江右後以之
大敵は徳友分多は并之方在天下之志

四月廿五日遣使以月日如左先程引
肩合之凡中五更余在如心使之在年
近大令子之例也。

有使院振代中事下及之新古和川
以善信其以如年水盛西用有可也
後之身於石田用海山後身因振之年
令或投之善保之世年一善府仕職年
仕身如少礼中上同土一官年父子在系
上田身人所名後身如身身於日年九

月而并遣使以月日如左先程引
格別之注有之者有於一每而朱中以下

○善保八年元文三年而善保之法
格別之注有之者有於一每而朱中以下

○丙午年

敬法門院攝政事一用お初後令或投
○壬子年出付夫合江印有之善保也
取内似合善保也日而信乃也後

貞治拾三年丙辰の宣保三年乙未
石原法親王の御年二月廿七日
閉門翌年二月廿七日
兵部卿の御年九月廿七日
平政卿の御年八月十日
死に在る日奇葬

義基

井原義基の御年
宣保三年乙未

上林内記

四卷

宣保三年十二月廿七日
二月廿七日
宣保三年四月廿七日
宣保三年八月廿七日
宣保三年十月廿七日
宣保三年十二月廿七日
宣保三年二月廿七日
宣保三年四月廿七日
宣保三年六月廿七日
宣保三年八月廿七日
宣保三年十月廿七日
宣保三年十二月廿七日

政郷

上林又三巻

宣保三年八月廿七日

己年九月廿一日... 家格... 用...
丁丑年九月廿一日... 家格... 用...
己丑年九月廿一日... 家格... 用...
江戶格別... 家格... 用...
如... 年九月廿一日... 家格... 用...
○國七年九月廿一日... 家格... 用...
父子九月廿一日... 家格... 用...
月... 格...

改美

上林又全書

年... 卯

高... 百石

壬辰八月廿一日... 家格... 用...
己未八月廿一日... 家格... 用...
己未八月廿一日... 家格... 用...
己未八月廿一日... 家格... 用...
己未八月廿一日... 家格... 用...

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

〇

者京姓

将野

為或百石或拾人持持

承收 凡内三美
三指後 但死美

大藏冠因大長禪之流流之階堂之殿
 行政世伊豆國加後那将野村代在
 但仕家名依与将野之移以之仕将野
 由那三郎景信承事以多取
 将軍義教之仕乃近侍

傳曰永享四年九月
 将軍義教之東孫之初法何由之今内院政事之い
 富子心之い所付 即常之い景行富子心之い
 身修小中多行日改画之い嗜少新白帶 合之いい

石見地將師初取二府系信忠於將野右助也信忠
 將軍義政之上位利發任任信忠改在任叙法服
 始々西業之々家職之叙公右心信忠於將野
 四府以師元信古信古系族之々
 將軍繪所之叙之々信古叙法服之々
 將軍義政之上位利發任任信忠改在任叙法服
 信古法服之々右心信忠於將野右助也
 將軍義政之上位利發之々叙法服之々
 信古法服之々右心信忠於將野右助也
 將軍義政之上位利發之々叙法服之々
 信古法服之々右心信忠於將野右助也

忠於將野永德之信忠國信長也西上之
 以直叙法服之々信忠國信長也西上之
 莫去之後大國者古也西上之々々信忠國
 石見地將師初取二府系信忠於將野右助也
 將軍義政之上位利發任任信忠改在任叙法服

孝信

將野右近

右近右監

古信家系族之々
 將軍繪所之叙之々信古叙法服之々

禁裡 紀河内陸軍と初元 和暦十年
八月海自死に接八歳多於地獄年身身

牙信

持野日部決命 幼弟女 探幽

慶長十七年正月十一歳 所抄没府

東照宮に御目人 同十九寅年 江戸下り

台徳院御目人 御目人於 清和御好有海業

花も 猫も画り 和紀父永徳再生

上意よりいひの元和 辰年 十の事 所
和紀心 清和宮 龍と画り 美目之心
之縁心 東叡心 清和宮 清和宮 龍と画り
中よりいひの事 新紀 辰年 十の事 所
和紀清和宮 門外より 和紀心 辰年 十の事 所
和紀父 永徳 和紀心 辰年 十の事 所
辰年 十の事 所 和紀心 辰年 十の事 所
辰年 十の事 所 和紀心 辰年 十の事 所
辰年 十の事 所 和紀心 辰年 十の事 所
辰年 十の事 所 和紀心 辰年 十の事 所

東照宮御紀述^{四月三日}西用^{三月廿七日}御紀述探出^{三月廿七日}以右

法眼^{三月廿七日}〇同十九年

林書^{三月廿七日}〇造官身^{三月廿七日}以^{三月廿七日}法眼^{三月廿七日}御紀述探出^{三月廿七日}以右
西用^{三月廿七日}〇御紀述探出^{三月廿七日}以右
西岸^{三月廿七日}〇御紀述探出^{三月廿七日}以右
御紀述探出^{三月廿七日}以右
御紀述探出^{三月廿七日}以右
御紀述探出^{三月廿七日}以右

楊野^{三月廿七日}自適^{三月廿七日}

尚信

始一信

御紀述探出^{三月廿七日}以右
御紀述探出^{三月廿七日}以右
御紀述探出^{三月廿七日}以右
御紀述探出^{三月廿七日}以右
御紀述探出^{三月廿七日}以右

所行月所... 慶和二年... 年四月七日... 此日于... 歲... 池上本...

常信

物野卷朴 知名之位 右近

耕野齋 長白舟 吉川

慶和二年... 四月七日... 此日于... 歲...

上... 利... 慶和二年... 四月...

大... 院... 上... 自... 人...

若... 有... 院... 和... 上... 道... 出... 用...

敬有院... 和... 上... 道... 出... 用...

枯木鳩一枚 岩鶴 二枚 鷄二枚

鐘馗一枚 渡唐天神

敬有院... 和... 上... 道... 出... 用...

和... 上... 道... 出... 用...

和... 上... 道... 出... 用...

和... 上... 道... 出... 用...

和... 上... 道... 出... 用...

和... 上... 道... 出... 用...

和... 上... 道... 出... 用...

正徳元年十一月
奉命
携手
物

仙洞所折向也
正徳元年十一月
奉命
携手
物

周信

折野新川

北右道 春寓休

正徳元年十一月
奉命
携手
物

五山以知公畫屏風畫之曰十年一月
六月死字九筆以奇

物類彙編 古信

古信

正德元年正月有西國人之曰之已
年七月有奇功名西國用之享保八升
年六月有奇而之取物之古國子鐵不
是使 上使公然之信有信之信公不
取使仁入 上使公古國之字以信月勤

以舟信公授年之信以月年正月六日
少信月之信信正國之信有信之信信
正信之信年十一月十日信信生字信信信
信方之使信信信信信信信信信信信信

古信

有信信信信信信信信信信信信信信
右信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信

〇同月十日、壬午年十一月、病九、
 〇壬子、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、

庚子、
 〇同月十日、壬午年十一月、病九、

玄信

〇同月十日、壬午年十一月、病九、
 〇壬子、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、

玄信

庚子、
 〇同月十日、壬午年十一月、病九、

〇同月十日、壬午年十一月、病九、
 〇壬子、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、
 〇壬午、病九、壬午年二月、

月五日... 二月九日... 三月廿五日... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
二月九日... 三月廿五日... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
三月廿五日... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
九月... 十月... 十一月... 十二月...
十月... 十一月... 十二月...
十一月... 十二月...
十二月...

四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
九月... 十月... 十一月... 十二月...
十月... 十一月... 十二月...
十一月... 十二月...
十二月...
同九年七月廿七日...
考...
同九年七月廿七日...

天明三年八月廿四日
奉旨
付由右大臣持形

全史
天明三年七月廿九日
年十月廿五日
思
廿六日
同年十月廿五日
天明三年十月廿五日
天明三年十月廿五日

天明三年十月廿五日
天明三年十月廿五日
天明三年十月廿五日

天明三年十月廿五日
天明三年十月廿五日
天明三年十月廿五日

天明三年十月廿五日
天明三年十月廿五日
天明三年十月廿五日

惟信

持野春川院

持野春川院

持野春川院

昭和元年三月廿六日
同月廿七日
二月廿九日
三月廿一日
三月廿二日
三月廿三日
三月廿四日
三月廿五日
三月廿六日
三月廿七日
三月廿八日
三月廿九日
三月三十日

三月廿六日
三月廿七日
三月廿八日
三月廿九日
三月三十日

三月廿六日
三月廿七日
三月廿八日
三月廿九日
三月三十日
三月三十一日
四月一日
四月二日
四月三日
四月四日
四月五日
四月六日
四月七日
四月八日
四月九日
四月十日
四月十一日
四月十二日
四月十三日
四月十四日
四月十五日
四月十六日
四月十七日
四月十八日
四月十九日
四月二十日
四月二十一日
四月二十二日
四月二十三日
四月二十四日
四月二十五日
四月二十六日
四月二十七日
四月二十八日
四月二十九日
四月三十日
五月一日
五月二日
五月三日
五月四日
五月五日
五月六日
五月七日
五月八日
五月九日
五月十日
五月十一日
五月十二日
五月十三日
五月十四日
五月十五日
五月十六日
五月十七日
五月十八日
五月十九日
五月二十日
五月二十一日
五月二十二日
五月二十三日
五月二十四日
五月二十五日
五月二十六日
五月二十七日
五月二十八日
五月二十九日
五月三十日
六月一日
六月二日
六月三日
六月四日
六月五日
六月六日
六月七日
六月八日
六月九日
六月十日
六月十一日
六月十二日
六月十三日
六月十四日
六月十五日
六月十六日
六月十七日
六月十八日
六月十九日
六月二十日
六月二十一日
六月二十二日
六月二十三日
六月二十四日
六月二十五日
六月二十六日
六月二十七日
六月二十八日
六月二十九日
六月三十日
七月一日
七月二日
七月三日
七月四日
七月五日
七月六日
七月七日
七月八日
七月九日
七月十日
七月十一日
七月十二日
七月十三日
七月十四日
七月十五日
七月十六日
七月十七日
七月十八日
七月十九日
七月二十日
七月二十一日
七月二十二日
七月二十三日
七月二十四日
七月二十五日
七月二十六日
七月二十七日
七月二十八日
七月二十九日
七月三十日
八月一日
八月二日
八月三日
八月四日
八月五日
八月六日
八月七日
八月八日
八月九日
八月十日
八月十一日
八月十二日
八月十三日
八月十四日
八月十五日
八月十六日
八月十七日
八月十八日
八月十九日
八月二十日
八月二十一日
八月二十二日
八月二十三日
八月二十四日
八月二十五日
八月二十六日
八月二十七日
八月二十八日
八月二十九日
八月三十日
八月三十一日
九月一日
九月二日
九月三日
九月四日
九月五日
九月六日
九月七日
九月八日
九月九日
九月十日
九月十一日
九月十二日
九月十三日
九月十四日
九月十五日
九月十六日
九月十七日
九月十八日
九月十九日
九月二十日
九月二十一日
九月二十二日
九月二十三日
九月二十四日
九月二十五日
九月二十六日
九月二十七日
九月二十八日
九月二十九日
九月三十日
十月一日
十月二日
十月三日
十月四日
十月五日
十月六日
十月七日
十月八日
十月九日
十月十日
十月十一日
十月十二日
十月十三日
十月十四日
十月十五日
十月十六日
十月十七日
十月十八日
十月十九日
十月二十日
十月二十一日
十月二十二日
十月二十三日
十月二十四日
十月二十五日
十月二十六日
十月二十七日
十月二十八日
十月二十九日
十月三十日
十一月一日
十一月二日
十一月三日
十一月四日
十一月五日
十一月六日
十一月七日
十一月八日
十一月九日
十一月十日
十一月十一日
十一月十二日
十一月十三日
十一月十四日
十一月十五日
十一月十六日
十一月十七日
十一月十八日
十一月十九日
十一月二十日
十一月二十一日
十一月二十二日
十一月二十三日
十一月二十四日
十一月二十五日
十一月二十六日
十一月二十七日
十一月二十八日
十一月二十九日
十一月三十日
十二月一日
十二月二日
十二月三日
十二月四日
十二月五日
十二月六日
十二月七日
十二月八日
十二月九日
十二月十日
十二月十一日
十二月十二日
十二月十三日
十二月十四日
十二月十五日
十二月十六日
十二月十七日
十二月十八日
十二月十九日
十二月二十日
十二月二十一日
十二月二十二日
十二月二十三日
十二月二十四日
十二月二十五日
十二月二十六日
十二月二十七日
十二月二十八日
十二月二十九日
十二月三十日

今更移取不の四六年二月有

中御所及西院御所改行山山柄有取の月

十月十日

清原院御所平生江移山山柄有取の月

取の月改行元年十月有取の月

五年十月有取

横書表山山柄有取の月有取の月

月六有取年十月有取の月

年十月有取山山柄有取の月

取

恭信

白川

七

女史七年六月有取の月

山山柄有取の月有取の月

山山柄有取の月有取の月

山山柄有取の月有取の月

山山柄有取の月有取の月

山山柄有取の月有取の月

二百四十四番用紙之箱一枚。同八年十二月
 廿四日。同用紙之箱一枚。同八年十二月
 廿九日。同用紙之箱一枚。同八年十二月
 廿五日。同用紙之箱一枚。同八年十二月
 廿一日。同用紙之箱一枚。同八年十二月
 廿七日。同用紙之箱一枚。同八年十二月

物野伊川

弟次郎

十力
榮信

寛政三年十二月廿七日。同八年十二月廿六日。

年^二五月^七日。父初子。同七年
 正月。同八年十二月廿七日。同八年十二月廿六日。

重出

在東川

將野

將野敏前与元信六代孫春村江平
常信次男

松平友盛

將野春之助 隨川

岑信

寛文二寅年二月三日壬子の元禄元辰
年八月十日旅指田原屋長吉の同三年
年十二月有松平人扶持の元禄五年甲

龍中台在瀨見山麓在唐屋山麓并山田川
○為凡尔在唐屋山麓并山田川并山田川
年一月廿五日所繪者不詳川并山田川
元申年十二月廿五日有凡尔

文正院極細依山連の同之成年十二月
十九日根津程尺申社の山田川并山田川
同美年十二月廿九日凡尔在唐屋山麓
山田川并山田川并山田川并山田川
根津程尺申社の山田川并山田川

平河五郎中らりて至の月廿五年
六月廿九日奥山醫原並山加信百俵
七人技打。

文正院極細筆朗依の同之成年

文正院極細筆下之成年

有依
模樣春大和山水梨地金高時繪根并
形花符金高時繪香相形内金梨地緒

珊瑚
○宝永六年十二月廿七日早七

歲池之山門守地中南之坊早

南信

美濃守

松平道川

沙受川

邦信

宝永五年十二月廿九日
○月六日
何年令國政時

有章院極真師之二流也
兼之
有章院極真師之二流也

保元元年十月
右高元
年二月
正月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

山休是也法有并山天并山画の定享三年
年七月五日北五拾歲日守身

幸信

法政抄

松平常川

吉之丞

延享三年九月十八日右左衛門少将徳川門
年十二月十五日西九拾歳日守身
二月五日

後河原孫三郎守一 山藏

右徳院梅谷貞久の同年十月五日
禁裏山王秋山画燈山少押繪羽衣
江戶月日辰午午日以取折山屏風
一奴山月辰辰辰辰辰の同年七月五日
日夕字物申山辰辰辰辰の同年十二月
二日朝報團王辰辰辰辰の同年
年正月八日辰辰辰辰の同年十月五日
山物之幅對山辰辰辰辰の同日
戊午年十月五日

帝所極品進出畫物帳之致不月
 乙未年七月十日出屏風二双物帳
 致同年十月廿九日齋齋屏風二双
 付月九月廿九年十二月廿九日
 候出候出法月出出用紙物帳
 同十年十一月廿九日大出出
 法月出出物帳物帳物帳
 三月廿九日物帳物帳物帳
 同十年十二月廿九日物帳物帳

出屏風用月廿九年八月廿九日
 乙未年八月廿九日

物野川

吉助

昆信

行

同和文子年八月廿九日
 同年十月廿九日
 同和文子年八月廿九日
 同和文子年八月廿九日
 同和文子年八月廿九日

中品用初月小書信令出光○同今年
九月影・京師東也初守書百羅漢撰物景
法七月○定改信字年十月今有死信
公筆以守

寛信

初野友川

三三武百儀七人技持
定改信字年十二月影令京師小書信
同六月影年十二月影令京師小書信
西五初○同十一年二月今有二信書

通信同年十月晦・始夕夜○同年
初月今有口難の口幅討信

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

藤原姓

中長持師

松平

文能信極松平氏存

松平五郎盛岑信一福長福等

松平主税峯曾曾子惣次

松平德光

峯高

五山同集年三月十六日氏経及能白
曾子代教四休日七戌年三月廿日

○壬辰元禄五年丁酉五月十九日新紀
○百集不為九出湖戶四月十日十
○百集不為九出湖戶四月十日十
九出湖戶四月十日十

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

櫻田御殿

得野

友系姓

家茂 九之節夫
初孫

得野越前守之信之代書抄法系

常信次男

松平友國 初吉助 随川

岑信

初得野之孫也

元禄之年月日櫻田御殿之代書抄法系

野田 善

○同二年十二月廿五日拾石人技持御
○室永元年十二月廿五日初九（古連方）
○同二年十一月廿九日西丸七至（同書）
○唐来百儀古料五拾儀合之拾貳時服
一諸家名額名字改之
○同二年十一月廿九日西丸七至（同書）
○同二年十一月廿九日西丸七至（同書）
○同二年十一月廿九日西丸七至（同書）
○同二年十一月廿九日西丸七至（同書）

瀨川 和受門

甫信

初邦信

實長井常信之男

室永元年十二月廿九日家持御
○同二年四月廿五日古連方書
○同二年五月廿五日古連方書
○同二年六月廿五日古連方書
○同二年七月廿五日古連方書
○同二年八月廿五日古連方書
○同二年九月廿五日古連方書
○同二年十月廿五日古連方書
○同二年十一月廿五日古連方書

同九年十月又白駒場神皇清成の信
ありありと見ゆ如清成所画く

○同九年二月七日火多清持の信

○同十六年二月十日古白七信之信

平治或志画す物に作る事あり

同十六年二月又白徳家所持の古画

と傳ふ事ありと知白堀文政あり

○同九年二月八日山崎清成は合書あり

○同九年四月廿又日二九の在る画

○同九年十月六日西九使書清成の在る
西清用○延享二年七月七日又
松歳同寺にあり

書信
受川

山崎清成

常川 和吉

書信

延享二年九月十八日 皇極經世一巻目録

延享二年十二月廿二日 皇極經世一巻目録

同二年二月廿二日 皇極經世一巻目録

皇極經世目録

有徳院教に在湯の同二年六月廿七日

禁裏清進献の画櫃中押信あり

信あり此の同月廿二日清進献の教

折清屏風を双画作すも信あり

格致の同二年七月廿六日 狩野の教

○同二年十二月十日 御解問あり

清屏風画作あり此の寛延二年正月

月八日清小押画同月十日西友より清

掛物に幅對作あり此の教あり領の

同二年二月十日

有徳院教あり此の清進問答あり

一枚の宝曆五年七月十日 清屏風一

双とあり此の十日十日 清掛教の同二年

十一月廿九日 清離屏風を双画

○延暦九年二月廿二日清書院上
中使少卿下西爾爾法或格教也飲○
同十年六月廿日大東清河在浦津
張山用張格教○同十二年二月廿日
物解國主也○清河風也
西○○明和三年二月廿二日
清方清風風及作也○同七年
八月十九日死也格之乘回寺に葬

岑盈

松平主税

氏幼少殿八階初原也

岡

初吉也

昆信

知行篤

同和五年八月廿日神卷經也清席

西行傳記卷之五 法華教者領 ○同六年正月
 月廿又日回上 ○同七年十月廿七日二月
 八日廿五日 ○同七年十一月又日家
 管山書信 ○同七年九月廿二日新
 席並幅對寫作行 ○同七年九月廿二日
 ○同七年十二月廿二日及今書也 ○同二
 年九月廿二日及今書也 ○同七年
 抄寫作行 ○同七年九月廿二日
 同七年十月廿二日及今書也 ○同七年

寛信

友門

寛政四年十二月廿二日家書 ○同六年
 ○同七年十二月廿二日及今書也 ○同七年
 ○同七年二月廿二日及今書也 ○同七年
 同七年二月廿二日及今書也 ○同七年

7
藤原氏

藤原
高直

源姓
家教丸

多田中留
出雲國住

勝次後流
源五郎長男

心雄

孫四郎

寶曆十一年秋親狹全清方聚
八指石。安永五年四月日先社奉儀
○同七年四月日奉儀百長并頁
指儀等元通和因也之之之
助定。○同九年十月日南東川中書
○同銀之下。○天四年十月十日
助定。○同十年十月十日伊豆國川
○書請出用。○歸府以財殿之金義

○同八年十月日海山堂子。○寶政
○同九年十月日海山堂子。○寶政
○同十年十月日海山堂子。○寶政
○同十一年十月日海山堂子。○寶政

好

三助

寶政四年十月日海山堂子。○寶政
七年十月日海山堂子。○寶政

純

吉之助

実正卿少男

寛政七年五月廿三日巻二家書小

普得

櫻田

村

源姓

高百俵五人持持

家致先三邑
花澤

肥後守源頼清孫為國末代清定重

政芳

佐兵衛門

明暦年中於所攝所殿 五尺四

指儀之扶持。萬治三年。出流。皇
寢儀之扶持成。延享三年。出被損
事。百儀之扶持成。貞享元年。
病免。享清。元禄四年。十月。五。老。年。終
不。知。葬。少。老。年。光。寺。

永澄

仁左衛門

元禄四年。十月。家督。指儀之扶持
。口七年櫻田。表火書。口十年。十月。
口拾月。宝永元年。十月。五。老。年。
表火書。口三年。二月。十三。口拾月。
口七年。十月。廿五。口拾月。表火書。口。
京保元年。十月。廿六。加秩。指儀合。表
表扶持。口三年。十月。廿八。口一。統。小
華。口八年。五月。廿五。致。任。口。日

九年三月廿九日死年八十二葬
口寺

傳次郎

改許

享保十八年五月廿五日家督善清。
元安元年十月三日刑部左衛門守善。
日守九月廿五日守善人。日守年

元日年始所見中流項載。延享
三年十月廿五日守善。寶曆五年
十月病歿。安永十年四月廿
日。天明二年八月廿日死年八十二
葬口寺

佐佐木

新三郎

改許

安永十年四月廿五日家督書請。天
明二年四月廿六日西丸中入。日八年
四月廿五日病乞書請。寛政十年
二月十八日終

傳次郎

繁松

芳角

寛政許重

寛政十年七月廿五日卷子。日十年三
月十八日家督書請

大藏院殿

上村

平家朝

三右衛門入道

源姓

家茂

石物 日本書紀
及 日本書紀

北後河原賴清孫乃國七代源胤
祇後國村之孫之上村七郎清忠
其代上村久石等尉清忠之孫

傳在焉

清成

寛永九年正月申延一
 七種儀之人持持。同申年十二月
 後より儀制。同申年十一月
 同申年四月。同申年六月十八日
 同申年七月。同申年八月
 同申年九月。同申年十月
 同申年十一月。同申年十二月

清正

清正

元禄元年六月十八日
 同申年六月十八日
 同申年七月十八日
 同申年八月十八日
 同申年九月十八日
 同申年十月十八日
 同申年十一月十八日
 同申年十二月十八日

寛永

清正

甲府殿へ召され。以絶

勝清

傳右馬

傳左馬

宮内省左近衛基重

年壬子。宝永七年六月五日

家信由多治の正徳元子に於

て書きたる事あり。同日

十二月廿八日初見。同日午時春

死す。享年

無病時多事

傳右馬

伝左馬

清胤

年壬子。正徳元年正月廿三日

小書信。享保二年十二月廿日

見。以家信由。以壬子年二月十九日

書紙劫定。元文三年正月廿日

也劫是。貞保之子。十月卒。定所
為役。貞延元年十二月五日病
卒。小童。寶曆八年十二月五日
卒。任。以十年十一月十日死。年
三。某月。卒。

傳在處 貞延

清勝

貞享二年九月十日。養子。寶曆八

貞享二年九月十日

年十月五日。家督。小童。和之
八月。中童。史。某。日。六年
十月十日。自死。年。三。某。日。卒。

傳在

恭敬

西永元年。十月五日。自死。小童。
天西二年。十月五日。自死。

Handwritten text on the right page, including a large character '春' at the top and several lines of vertical script.



寒河

高橋依之持持

友系姓

友成

高橋内前持友系友成
友成因裏格友

孫右府將軍境下位下或孫右者系

其系郷衣流流丸馬元境下位下陸美

与系系十一代孫系之河七所在馬耐元

系系流之由也

保久

新編

天保十年

東照宮保久公誠格千代孫保久大和
境高尾山守山守山守山守山守山
田守保勝白子守保南守保
常浪子守文守文守文守文守文
守久守久守久守久守久守久
日年陸兵守海守海守海守海守海

保久仲子守海守海守海守海守海
守久守久守久守久守久守久
守久守久守久守久守久守久
守久守久守久守久守久守久
守久守久守久守久守久守久
守久守久守久守久守久守久
守久守久守久守久守久守久

古名

保實

天保十年守海守海守海守海守海

其人持巧假令之人持巧一麻。考其女
六年六月朔日死。口云云。發

保清

市奈文

慶安六年。在信守出物屋。貞享三年
年二月廿日死。亦故法あり。發

保利

貞光妻

一云

貞享三年二月廿日死。發

室永江年八月十日。廣文信守者

○貞享三年二月廿日死。亦故法あり。發

浦保守者。○貞享六年十月廿日死

中。其口云云。○享保七年十月廿日

死。亦故法あり。○同八年十月廿日死。在

○貞享三年七月廿七日死。亦故法あり。發

發

保尚

私年次

天保元年八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

常負

天保

私年次

天保元年八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

八月廿五日

年十二月廿七日初十日所下出紋
附束社一物入。の和元年十二月
刑部卿致遊云云并氏初の初請。以の
因并大百口并初定事の元也。
口二年十二月廿七日初定事の。
天の元年四月
許養若伴を元は法修女門物言
石あは用取扱少を以の六月廿七日
口初定事の口初定事の口初定事の

初十日所下初十日所下初十日所下
の和元年十二月廿七日初十日所下
刑部卿致遊云云并氏初の初請。以の
因并大百口并初定事の元也。
口二年十二月廿七日初定事の。
天の元年四月
許養若伴を元は法修女門物言
石あは用取扱少を以の六月廿七日
口初定事の口初定事の口初定事の

常之

常之助

宝曆二年十一月廿九日初九。日午之
八月廿九日。此書は兼以て書

保常

初太郎

福物家
実松山常楽成書

昭和二十一年五月廿七日。女子。日午
二十一年初九。日午廿八日。此
日午。此書は兼以て書

保道

金太郎

美大井。福物。若克。六男

昭和二年二月廿二日。年。養子。同

年十一月廿二日。初九。西元六年十二

月十九日。初九。行。小十人。日八年

九月廿二日。初九。行。西元四年

四月廿七日。初九。日午。二十一年

今系。此系。初九。行。女子

安永九年正月七日天明二年正月
日向山の山日女名目以永年二月
日向山に有る上院大の村の山名
と河原或記の天明七年の山日女
名目と長助河原山名と書方村
の山名大の村の山日女と云
河原二名有るの山日女と云
十六の山名は河原山日女と云
二反

保高

河太郎

寛政元年九月廿七日



壽陽

庚午年



